

アレクサンダー・コールドー

Alexander Calder

すいへい

水平 Horizontal

75.3cm × 108.0cm

1963

グワッシュ・紙、額装 / gouache on paper, in frame

1983 年度作家より寄贈 / gift of Artist in FY1983

1898年、アメリカのペンシルベニア州生まれ。コールドーさんは
風や モーターなどで 動く 「モビール」というスタイルの
彫刻や 鉄板を組み合わせて つくられる 「スタビル」という
スタイルの 彫刻作品などで よく知られています。《水平》は、
1963年に 描かれた 水彩画です。この絵のなかにもある
丸や三角 影がかかった球などは コールドーさんの絵の作品に
よく登場します。そして この美術館の 中庭には
コールドーさんの 《フラミンゴ》(1973年)という
彫刻作品もあります。そちらも ぜひ ごらんください。

触図の説明

筆でえがかれた線や 色で塗られた形を 凸状に
浮き上がらせて います。色の違いは それぞれの色を
点や線の 模様にして います。何色が どの模様なのか
わかるような 触図の色見本が 触図の左側に あります。
触図で 色を伝える 模様は 決まりはないので、
今回の 色見本の ルールは この作品だけの ルールです。

Born in 1898, Pennsylvania, US. Calder is celebrated for mobile sculptures that move with the wind, or with a motor. He also made 'stable' sculptures, from combined steel plates. *Horizontal* is a watercolour from 1963. Circles, triangles and spheres with cast shadows appear frequently in Calder's paintings. The courtyard of this museum contains his sculptural work, *Flamingo*(1973), and we hope you enjoy viewing that, too.

About Tactile Drawings

Brushstrokes and colors have been turned into raised areas. Different colors are indicated by patterns of dots and lines. A sample tactile drawing to the left provides a guide to which patterns indicate which colors.

There is no set rule for patterns indicating colors in tactile drawings, so the sample for this piece only explains the patterns for this individual piece.

おばたまさお
小幡正雄

Obata Masao

むだい
無題 Untitled

左から 30.5 cm × 44.0 cm、28.1 cm × 37.2 cm、29.4 cm × 48.0 cm、
60.6 cm × 88.6 cm、31.5 cm × 60.5 cm、29.7 cm × 41.9 cm

制作年不詳 / date unknown

色鉛筆・段ボール / color pencil on cardboard

2016 年度相続財産管理人寄贈 / gift of administrator of estate in FY2016

1943年、岡山県生まれ。小幡さんは神戸市にある
「ひふみ園」という障害者支援施設で暮らしていました。
施設に届く段ボールをあつめては赤鉛筆で
絵をかき自分の部屋にためていました。彼の絵で
よく知られているのは結婚式や家族をえがいたものです。
両手をあげて正面を見つめる人たちの姿が印象的です。
そのほかにも動物や植物あるいは戦艦や戦闘機なども
よくえがかれています。また、ダンボールの角が
ひしゃげないように丁寧に丸く切られているのもポイントです。

触図の説明

この触図は色鉛筆でえがかれた人物や乗り物、
植物を凸状に浮き上がらせています。
実際の作品は、線で輪郭線や模様をえがいて、その中を
塗っています。線と面のちがいをはっきりとさせたほうがよい
作品については線は厚く、塗ってあるところは薄く
凸状に浮き上がらせています。

Born in 1943, Okayama Prefecture. Obata lived in Kobe (Hyogo Prefecture) in a residence for people with cognitive difficulties, called Hifumi-en. He gathered cardboard arriving there, drew on it with red pencils, accumulating drawings in his room. Especially admired are his impressive depictions of weddings and family. People are drawn frontally, with hands raised. His other motifs include animals, plants, battleships and fighter planes. Another feature is carefully chamfered cardboard corners, rounded up so as to save them from becoming crushed.

About Tactile Drawings

In these tactile drawings, people, vehicles, and plants drawn in colored pencil are indicated by raised areas.

In the original work these are all drawn outlines and patterns within lines, and have color within these lines.

Some works require a clear distinction between their lines and colored areas to be conveyed through touch. Therefore, we created tactile drawings by thickening the lines and slightly raising the colored areas.

ジョナサン・ボロフスキー

Jonathan Borofsky

飛ぶ夢を見た I Dreamed I Could Fly

125.0cm × 100.0cm

1989

リトグラフ、紙 / lithograph on paper

1993 年度購入 / purchased in FY1993

1942年、アメリカのマサチューセッツ州生まれ。

ボロフスキーさんは、1から数を数えて紙に書きつづける

《1から無限へのカウンティング》という作品や自分の

作品をいろいろなところに飾ってみる人をつつみこむ

ような展覧会の会場づくりなどでよく知られています。

1972年ごろから自分が見た夢を絵にすることもしています。

《飛ぶ夢を見た》は、その一つです。ここでは空を飛んでいる

自分の姿がえがかれています。

触図の説明

作品の上の方にえがかれた人物の形を凸状の

線と面で表現しています。

顔の中にある目や鼻や口がさわってわかるように、

顔は実際より大きくしています。

下のでこぼこした部分は山です。

たくさんの山が並んでいて、

その山の上を人物が飛んでいます。

Born in 1942, Massachusetts, US. Borofsky is known for *Counting from 1 to Infinity* in which he counts numbers while writing them down. He is also known for his unique exhibiting style, where works surround the viewer. From about 1972 he began turning dreams into finished works, one being *I Dreamed I Could Fly*. The work depicts the artist in flight.

About Tactile Drawings

The person in the upper part of this work are indicated by raised lines and surfaces.

The face is larger than the actual work, so that one can pick out the eyes, nose, and mouth by touch.

The bumpy area in the lower half of the work is mountains. There is a line of mountains, and a person is flying over them.

さわこうじん
沢宏鞆

Sawa Kojin

しゅ やま
朱の山 The Red Mountain

89.0cm × 71.0cm

1981

紙本著色 / colour painting on silk

1984 年度購入 / purchased in FY1984

1905年、滋賀県生まれ。画家として活動していた
沢さんは 50代の頃に 日本各地の 海岸を 旅しました。
そこで見た 切り立った 険しい崖や 岩山などの
あらゆる景色を 絵のテーマにしました。《朱の山》は
ゴツゴツとした 岩肌が みえる 山がえがかれています。
朝の早い時間か 夕方の時間なのでしょうか。
山のうしろには 空が 黄金色に かがやいています。
そして 山は 作品の題名のとおり 赤く 照らし出されて います。

しょくず せつめい
触図の説明

画面の 真ん中の ほとんどの部分に 大きな山が
えがかれています。いろいろな厚みの 凸状の部分は
山の ゴツゴツした 感じを 表現 しています。
山の下のもこもこした形は、林をあらわしています。
この触図では さわったときに 山と林の区別が
わかりやすいように、山と林の間を 空けています。

Born in 1905, Shiga Prefecture. Already a successful painter, in his fifties Sawa went on visits to coastlines throughout Japan and began taking the theme of rough landscapes of steep cliffs and rocky hills. *The Red Mountain* depicts an eminence with a lumpy surface, probably seen in early morning or evening, the sky behind shining in golden light. As the title suggests, the mountain itself is illuminated red.

About Tactile Drawings

The central portion of this image is dominated by a large mountain.

The roughness of the mountain is indicated by raised areas of varied thickness.

Puffy shapes at the base of the mountains represent a forest. There is a space between the mountain and the forest in the tactile drawing so that the contrast between the two can be better understood.

フランク・ステラ Frank Stella

イスファハーン Isfahan

306.0cm × 611.5cm

1967

アクリル・カンヴァス / acrylic on canvas

1981 年度購入 / purchased in FY1981

1936年、アメリカのマサチューセッツ州生まれ。ステラさんは
もともと できるだけ いろいろなものを省いて 少ない色や
形だけで 絵をかく 「ミニマリズム」という スタイルの
先駆けの 芸術家と されています。

1960年頃からは キャンバスの 形を よくある四角形ではなくて
いろいろな形にしたり たくさんの色を つかった 大きな作品も
つくるようになりました。

ステラさんは 1963年に イランに行って たくさんの きれいな
建物に 感動したといえます。色とりどりの ストライプと
丸が組み合わさったような 形が 特徴的なこの作品は
イランの 古い町の名前 「イスファハーン」 から そのタイトルが
つけられています。

しょくず せつめい 触図の説明

● おお つた もけい 大きさを伝える模型

《イスファーン》は ^{にんげん からだ} 人間の身体より ^{おお} ずっと大きな ^{さくひん} 作品です。
^{おお} 大きさを ^{かん} 感じてもらうため ^{さくひん} 作品の ^{うえぶぶん} 上部分の触図を ^{じっさい} 実際の
^{おお} 大きさに ^{つくりました。} つくりました。

^{しょくず} 触図の ^{よこはば} 横幅は ^{さくひん} 作品と ^{おな} 同じ ^{おお} 大きさです。

^{たか} 高さは ^{ゆか} 床から ^{180センチメートル} 180センチメートル ^{くらいです。} くらいです。

^{しょくず} 触図の ^{はし} 端を ^{ゆび} 指で ^{さわっていくと} さわっていくと ^{さくひん} 作品の ^{おお} 大きさが ^{わかります。} わかります。

● ^{ぜんたいず} 全体図がわかる ^{しょくず} 触図

^{さくひん} 作品の ^{ぜんたい} 全体の ^{かたち} 形が ^{わかる} わかる ^{しょくず} 触図です。この ^{しょくず} 触図は ^{さくひん} 作品を

^{ちい} 小さくして ^{つくっています。} つくっています。 ^{おお} 大きな ^{しょくず} 触図は ^{しょくず} この ^{しょくず} 触図の

^{みぎはし} 右端にある ^{てんせん} 点線より ^{うえ} 上の ^{ぶぶん} 部分を ^{つくっています。} つくっています。

この ^{しょくず} 触図の ^{てんせん} 点線より ^{した} 下の ^{ぶぶん} 部分は、 ^{おお} 大きな ^{しょくず} 触図の ^{ゆか} 床から ^{した} 下に

^{おも} あると思っ ^{てください。} てください。

Born in 1936, Massachusetts, USA. Stella was a pioneer of Minimalism painting, using few forms and colours and reducing elements to the fewest possible. From the 1960s, he began working on canvases of many shapes, quite unlike the expected rectangles. He also moved into large-format, colorful paintings. Stella visited Iran in 1963 and was impressed by its beautiful buildings. This work is characteristic of the result, looking like a combination of colorful stripes and circles. The work is named after an ancient Iranian city, called "Isfahan".

About Tactile Drawings

● model that conveys the size

Isfahan is a painting larger than a person. In order to give a sense of its size, this tactile drawing is a scale replica of the upper portion of the original work. The tactile drawing is as wide as the original work. This tactile drawing stands about 180 centimeters high. Following the edge of the tactile drawing will show how large the original work is.

● Overall tactile drawing

This tactile drawing provides an overall view of the original work. The tactile drawing is a scaled-down replica of the original work. The larger tactile drawing is the upper part past the dotted line at the right edge of this tactile drawing. If the larger tactile drawing was the same size as the original work, the part below the dotted line would be under the floor.

トム・ウェッセルマン Tom Wesselman

グレート・アメリカン・ヌード #6

Great American Nude #6

121.9cm × 121.9 cm

1961

ミクストメディア、コラージュ、板 / mixed media and collage on board

1988 年度購入 / purchased in FY1988

1931年、アメリカのオハイオ州生まれ。

ウェッセルマンさんは 1950年代の 終わり頃から

コラージュ (貼り絵) を使って 作品を つくりはじめます。

「グレート・アメリカン・ヌード」は、彼のなかでも

よく知られている 作品シリーズです。ここに 展示している

《グレート・アメリカン・ヌード#6》は シリーズの 6作目です。

絵の中には 横になっている 裸の女の人があります。こうした

裸の女の人、「裸婦」は 美術の歴史の中で よくえがかれてきた

テーマです。この作品では 顔のない裸婦が いろいろな 絵や

写真や 壁紙を コラージュした 家の中の部屋のなかに います。

触図の説明

いろいろなものを 組み合わせて つくる コラージュの技法を

伝えるために 画面に えがかれたものを わけた触図を

つくりました。手前に えがかれたものから 順番に わけています。

わけていない 触図と 一緒に さわってみると、

どこに 何が えがかれているかが わかります。

Born in 1931, Ohio, USA. Wesselman started working with collage in the late 1950s, and Great American Nude series particularly well-known. As the title suggests, *Great American Nude #6*, is sixth in the series, showing a naked woman in reclining position. The faceless, naked figure inhabits a room of collage images, photographs and wallpaper.

About Tactile Drawings

The original work is a collage made of various items, and a series of tactile drawings was created, separating the items depicted to convey the collage technique. The items depicted are divided from this side in order. Touching the undivided tactile drawing at the same time as the other parts will indicate where the pieces are on the original work.

たなか あつこ

田中敦子 Tanaka Atsuko

くろ み だま

黒い三ツ玉 Three Black Balls

194.8cm × 139.8 cm

1962

油彩・カンヴァス / oil on canvas

1985年度購入 / purchased in FY1985

1932年、大阪府生まれ。田中さんは、1954年につくられた

「具体美術協会」という 芸術家のグループで 活動していました。

さまざまな色で 光ったり 消えたりする 電球と 電気コードが

たくさんついた服 《電気服》は よく知られている 田中さんの

作品の 一つです。田中さんは 《電気服》を

自分で着る という パフォーマンスも 行っていました。

絵の作品に 出てくる たくさんの丸と それらを つなぐ線は

《電気服》の 電球と 電気コードを 思わせます。

触図の説明

作品の中の いろいろな色の 丸と 線を 凸状に

浮き上がらせています。一番厚く 盛り上がっている 丸い形の

面は 黒い色をしています。形をさわったときに 判別がつくように、

丸と丸や 線の間を 実際よりも 空けているところがあります。

線の数も 減らしています。全体的に 丸と線が 絡まっている

様子を 触図の 画面右側で 表現しています。

Born in 1932, Osaka Prefecture. Tanaka was an active member of the Gutai Art Association, formed in 1954. *Electric Dress* is one of Tanaka's known pieces, consisting of blinking light bulbs and electric cords. She used to perform wearing it. The numerous circles and connecting lines of the present work recall the bulbs and cords of *Electric Dress*.

About Tactile Drawings

Dots and lines of various colors are indicated by raised areas. The thickest rounded surfaces are black.

Spaces between dots and lines are larger than the original work to provide better contrast. Some of the lines have been removed from the tactile drawing version of this work. The right side of the tactile drawing indicates how the dots and lines are intertwined in across the entirety of the original work.

いばやすこ
伊庭靖子 Iba Yasuko

Work 2011-5

120.0cm × 250.0cm

2011

油彩・パネル / oil on panel

2021年度株式会社大林組寄贈 / gift of OBAYASHI CORPORATION in FY2021

Work 2011-6

120.0cm × 250.0cm

2011

油彩・パネル / oil on panel

2021年度株式会社大林組寄贈 / gift of OBAYASHI CORPORATION in FY2021

1967年、^{ねん}京都府^{きょうとふ}生まれ。伊庭^{いば}さんは^{くだもの}果物や^{とうき}陶器を
^{しゃしん}写真にとって それをもとにして ^え絵を かいています。

《Work 2011-5》と《Work 2011-6》は、^{おも}主に
^{えどじだい}江戸時代に ^{しがけん ひこね}滋賀県の彦根で つくられていた
^{ことうやき うつわ}湖東焼の器を ^{さくひん}テーマにした 作品です。

^え絵では ^{うつわ ぜんたい}器の全体はではなくて ^{ひょうめん}ズームアップした 表面が
えがかれています。 ^{かん}さわった感じや ^{ひかり はんしゃ}光の反射、
^{くうきかん}まわりの空気感も あらわされているようです。

しょくず せつめい 触図の説明

しょくず さくひん せいさく いばやすこ
この触図は、作品を 制作した 伊庭靖子さんと、
しかくしょうがい みつしまたかゆき しょくずせいさくしゃ
視覚障害のある 光島貴之さんと、触図制作者の
おがわまみこ そうだん
小川真美子さんが 相談しながら つくりました。

みつしま げいじゅつか
光島さんは 美術家でも あります。

おがわ しょくず しさく
小川さんが つくった 触図の試作を みんなでさわり、

はな あ ようす さつえい えいぞう みぎ かべ うつ
話し合う 様子を 撮影した映像が 右の壁に 映されています。

しょくず ぎほう ふだん ひかり ひょうげん ちょうせん
この触図の技法では 普段はしない、光の表現に挑戦しています。

えいぞう 映像

ぐらふ
ディレクション：graf

さつえい へんしゅう かたやまたつき やまがみみこと
撮影・編集：片山達貴／山神美琴

Born in 1967, Kyoto Prefecture. Iba uses photographs of fruit and ceramics as the bases of her painting.

Work 2011-5 and *Work 2011-6* are both on the theme of Koto Ware, a ceramic from Hikone (Shiga Prefecture) produced in the Edo Period. The paintings show close-ups of ceramic surfaces, not vessels as a whole, imparting a strongly tactile feeling which includes the reflections from the surroundings.

About Tactile Drawings

The tactile drawings were created by Ogawa Mamiko after discussions with Iba Yasuko, the creator of the original works, and Mitsushima Takayuki, a man with a visual impairment.

Mitsushima is also an artist.

Ogawa created prototype tactile drawings which were then touched by everyone, while they discussed them. This was filmed, and the result is on the wall on the right.

Here, we are trying to represent the light which typical tactile drawings do not usually do.

Film

Director : graf

Camera/editor : Katayama Tatsuki/Yamagami Mikoto